

母豚栄養が産肉性に与える影響

松川 善昌 宮城 洋八^{*}
池田 正治^{**} 大城 弘四郎

I はじめに

豚の産肉性および体形質は肥育素豚の素質と飼養管理等によって左右されることが知られている。しかし、飼料給与量の異なった母豚から生産される子豚の産肉性、と体形質についてはまだ明らかにされていない。従って、母豚栄養が生産子豚の産肉性、と体形質に与える影響について調査検討したので、その成績を報告する。

II 試験材料および方法

1. 試験期間

1975年（昭和50年）5月—1976年（昭和51年）10月

2. 供試豚

「亜熱帯における大型種豚の飼料給与基準に関する試験」^{1),2)}に用いた多給区、基準区、少給区の母豚から生産された子豚（LW）

3. 試験区分

試験区分は表1のとおりである。

第1表 試験区分

区分	I 区 (多給区生産) 子豚区	II 区 (基準区生産) 子豚区	III 区 (少給区生産) 子豚区	計
母豚数	3	4	4	11
試験豚数	6 (♂3, ♀3)	8 (♂4, ♀4)	8 (♂4, ♀4)	22

4. 調査項目

1日平均増体重、飼料要求率、と体形質等

5. 試験豚の飼養管理

(1) 肥育期間

体重 30 kg—90 kg

(2) 豚房

デンマーク式複列豚舎で、間口 2.7 m 奥行 4.8 m の豚房に同腹去勢、雌 2 頭づつ、計 4 頭を 1 群として群飼した。

(3) 給餌

新豚産肉能力検定用飼料を、不断給餌した。³⁾飼料の配合割合は表 2 のとおりである。

* 現 沖縄県肉用牛育成センター

** 現 沖縄県大阪事務所

表2 新豚産肉能力検定用飼料の配合割合

原 料	配 合 割 合	原 料	配 合 割 合
とうもろこし	22.00 %	第3リン酸カルシウム	0.80 %
マ イ ロ	22.00	食 塩	0.50
大 麦	22.00	微量ミネラル添加物	0.15
魚 粕	4.00	ビタミンAD添加物	0.15
大 豆 粕	9.00	ビタミンB群添加物	0.10
ふ す ま	12.00	合成メチオニン	0.10
脱脂米ぬか	4.00	D C P	約12.9
アルファルファ	2.50	T D N	約70.1
炭酸カルシウム	0.70	D E	3080 Kcal

(4) 給水

ウォーターカップにより不断給水した。

6. 測定方法

(1) 体重

体重は毎週1回、同一曜日に測定した。

(2) 解体および肉分け方法

と体の解体、枝肉の測定および肉分け方法は、「豚肉の肉質改善に関する研究実施要領」⁴⁾に従った。

Ⅲ 試験結果および考察

1. 肥育成績

肥育成績は表3のとおりである。

表3 肥育成績

測定項目 \ 区分	I 区 (多給区生産) 子豚区	II 区 (基準区生産) 子豚区	III 区 (少給区生産) 子豚区
1日平均増体重	760.2 g	789.8 g	770.0 g
飼料要求率	3.21	3.12	3.25

(1) 増体重

1日平均増体重は表3に示すように、I区(多給区生産子豚区)760.2g、II区(基準区生産子豚区)789.8g、III区(少給区生産子豚区)770.0gであり、II区、III区、I区の順であった。それらは、すべて豚産肉能力検定判定基準のB級の成績であった。また、それらの区間において有意差は認められなかった。

(2) 飼料要求率

飼料要求率は表3に示すとおり、Ⅰ区3.21、Ⅱ区3.12、Ⅲ区3.25であるが、有意差は認められなかった。

2. と体成績

と体成績は表4のとおりである。

表4 と体成績

測定項目	Ⅰ区 (多給区生産) 子豚区	Ⅱ区 (基準区生産) 子豚区	Ⅲ区 (少給区生産) 子豚区
枝肉歩留(%)	73.38	74.00	75.47
と体長(cm)	93.72	94.00	92.98
背腰長Ⅱ(cm)	69.02	68.90	68.03
と体幅(cm)	33.23	33.10	33.01
背脂肪層の重さ(cm) (肩、背、腰の平均)	2.77	2.81	3.01
コース断面積(cm ²)	17.38	17.57	17.20

(1) 枝肉歩留

枝肉歩留はⅠ区73.38%、Ⅱ区74.00%、Ⅲ区75.47%であり、有意差は認められなかった。

(2) と体長

と体長はⅠ区93.72 cm、Ⅱ区94.00 cm、Ⅲ区92.98 cm、であり、有意差は認められなかった。

(3) 背腰長Ⅱ

背腰長ⅡはⅠ区69.02 cm、Ⅱ区68.90 cm、Ⅲ区68.03 cmであり、有意差は認められなかった。

(4) と体幅

と体幅はⅠ区33.23 cm、Ⅱ区33.10 cm、Ⅲ区33.29 cmであり、各区ともほとんど差はなかった。

(5) 背脂肪の厚さ

背脂肪の厚さ(肩、背、腰の3部位平均)はⅠ区2.77 cm、Ⅱ区2.81 cm、Ⅲ区3.01 cmであり、Ⅰ区、Ⅱ区、Ⅲ区の順に厚くなる傾向にあったが、有意差は認められなかった。

(6) ロース断面積

ロース断面積はⅠ区17.38 cm²、Ⅱ区17.57 cm²、Ⅲ区17.20 cm²であり、ほとんど差はなかった。

3. 肉分け成績

肉分け成績は表5のとおりである。

(1) 赤肉量

赤肉量はⅠ区17.67 kg、Ⅱ区17.16 kg、Ⅲ区17.79 kgであり、ほとんど差はなかった。

(2) 脂肪量

脂肪量はⅠ区9.24 kg、Ⅱ区9.23 kg、Ⅲ区10.26 kgであり、Ⅲ区がⅠ区、Ⅱ区に比して約1 kg多

表5 肉分け成績

測定項目 \ 区分	I 区 (多給区生産) 子豚区	II 区 (基準区生産) 子豚区	III 区 (少給区生産) 子豚区
赤 肉 量 (kg)	17.67	17.16	17.79
脂 肪 量 (kg)	9.24	9.23	10.26
骨 量 (kg)	2.82	2.84	2.93
そ の 他 (kg)	2.02	2.12	3.22

いが、有意差は認められなかった。

(3) 骨量

骨量は I 区 2.82 kg、II 区 2.84 kg、III 区 2.93 kg であり、ほとんど差はなかった。

IV 要 約

飼料給与量の異なった母豚から生産された子豚 (LW、22 頭) に新豚産肉能力検定用飼料を不断給餌し、その産肉性および体形質について調査した。その調査成績の概要は次のとおりである。

肥育成積、と体成績および肉分け成績は、I 区 (多給区生産子豚区)、II 区 (基準区生産子豚区)、III 区 (少給区生産子豚区) の 3 区間において有意差は認められなかった。すなわち、母豚の飼料給与量とその生産子豚の産肉性、と体形質に与える影響は認められなかった。

V 文 献

- 1) 比屋根孝惟他 3 名・亜熱帯における大型種豚の飼料給与と基準に関する試験 (第 1 報) ・沖縄県畜産試験場研究報告第 14 号 116-123・1974
- 2) 池田正治他 5 名・亜熱帯における大型種豚の飼料給与と基準に関する試験 (第 2 報) ・沖縄県畜産試験場研究報告第 15 号 53-59・1976
- 3) 日本種豚登録協会・豚産肉能力検定実務書・1975
- 4) 農林省畜産試験場加工第 2 研究室・豚肉の肉質改善に関する研究実務要領・1972